



**今回は、関市長さんへのインタビュー、LGBTパンフレット配付の報告です！**

**◇ 関市LGBTフレンドリー宣言について、市長さんにインタビューしました！**

**日時： 平成30年1月17日(水) 16:00~16:35**

**参加者： 2年生5名 場所： 関高校**

関高校2年生のLGBT研究グループは、今までに、様々な立場の方々（行政、当事者、企業、研究者）のお話をうかがってきました。今回は、全国の自治体に先駆けてLGBTフレンドリー宣言を発表した関市長さんへのインタビューです。

宣言発表のきっかけや目的、市内外の反響、近く発表される第五次総合計画の中での位置づけ、今後の具体的な計画等、活発な質疑応答が行われました。



**◇ 1月17日、LGBTパンフレット配付し、全校放送で内容紹介をしました！**

市長さんインタビュー当日の朝、全クラスに、関市製作のLGBTパンフレット「いちから学ぼう LGBT」が、配られました。LGBTに関する基礎知識がわかりやすく説明されているパンフレットで、市内小中学校、高等学校すべてに配付される予定です。本校では、LGBT研究グループの生徒が、お昼休みの全校放送で、簡単な内容紹介を行いました。多くの生徒がパンフレットを手にとり、しっかりと目を通していました。



## ◇ 取り組んだ生徒の感想

■ 尾関市長とお話させていただき、自分の知らないことを知るきっかけは、様々なのだと感じました。

私が LGBT について研究すると決めた理由は、彼らに対する、差別や偏見をなくしたいと思ったからです。ではなぜ、自分は LGBT 当事者の権利を主張したいと思ったのか、考えてみたところ、自分がとても感情移入しやすい体質だからではないか、と思いいたりしました。私は、「自分は LGBT 当事者ではない」と認識したり、逆に自分は「LGBT 当事者である」と認識したことが未だないため、もし、自分が性的少数者で、周りの人間から差別されたり、迫害されたりしていたらと考えると、思い込みや偏見で「近寄り難い」と距離を置かれるのはとても辛いことだと想像しました。

私は、「もし自分が…」といった仮定をすることで、自分がとるべき行動を決めているのだと思います。そこには単純に、「自分がされて嫌なことは人にしない」という、小学生の頃から言われ続けている教えがあります。特に、私は過剰に共感してしまうため、勝手に思い悩み、苦しむことが多いです。そのため、必然的に、立場の弱いといわれる人のことを考える癖があります。しかし、そうでない人ももちろんいます。そういった場合、自分の知らない世界について、考える機会に出会わない限り、自分の意識下に問題を置くことがないのではないかと考えます。

その点で、日本という国は平和であるため、ネットやテレビから様々な情報に触れることができます。さらに、カミングアウトの許される環境にある人は、現状を変えたいと声を上げることでもあります。自分の考えを発信し、それを受け取ることができる幸運、自分の得た情報を広げていける幸運は大きいと思います。日本でなかったら、殺されることもあるため、簡単には言えないことでも、相談できる相手がいて、それを受け入れることを許す環境があることに幸せを感じます。宗教や伝統、教育や家柄などから、差別や偏見を廃絶したいと主張することも許されない人もいると考えると、そうでない私たちは、できることをしていかなければならないと思いました。特に、宗教の違いなどが影響して、自分の介入できる問題が限られる場合、できることからしていかないと、格差は広がるばかりです。しかし、できることしかやらないと、できることしかできないままだと思うと、一步を踏み出す覚悟と、それに必要な知識や信念を、手にする努力をしていかなければならないと思います。

自分の知らない世界があることは自然で、それに対して、戸惑いや違和感、先入観があることもまた、自然なことなので、まずは自分の世界を広げるために、色々な個性を持つ人と出会い、自分を良い方向へ変えていけたらいいと思いました。また、そういった働きかけを、周りの人にもしていけたらいいと思います。



■ 私は関市のフレンドリー宣言がなければ、学校で LGBT について研究しようと思っていなかったとおもいます。尾関市長がおっしゃったように、多様性を求める気持ちは私自身とても強いです。LGBT について研究する中でその気持ちはより強くなったし、多様性を感じることで自己の確立がなされているとかんじています。ですので、関市が全国的にも先陣を切って LGBT について取り組んでいることにより、私は LGBT の研究を深くできているで、

とても有り難いと感じました。

そして、尾関市長と直接お話でき、また、さまざまなお話をしてくださりととても有意義な時間になりました。ありがとうございました。

■ 少人数で市長さんにインタビューをさせてもらい、かつ自分の気になっていた質問も受けていただけて、大変貴重な時間をすごすことができました。

私が、市長さんとの会話のなかで一番心に残っているのは、市長さんの市政において大事にしておられる『ダイバーシティ』（多様性）という言葉です。多様性というと、人によりその程度の価値観は異なると思いますが、なるほど少なくとも LGBT への取り組みはまさにその言葉にあてはまる、象徴的な取り組みでもあると感じ、急激な浸透は無理にしろ、その一歩が始められたことは大変良いことだと思いました。

関市の教育委員会主催の研修に何回か参加させていただいてきた身としての見方になってしましますが、市政における政策は全体的な影響力を必ずしも持つわけではありませんが、少なからずそれを受けた人たちにとっては人生を変える程大きなものになり得ると思っています。今回の LGBT へのフレンドリー宣言も、間違いなく影響を受けた方たちはいるはずです。まちづくりに対する市長さん、そして関市全体の姿勢というものを学ぶことができ、大変充実しました。ありがとうございました。

